

平成28年度 伊那市立美篤小学校評価まとめ

学校評価者評価（A：十分達成された

B：ほぼ達成された C：不十分であった） 自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった）

学校教育目標	1 本気：自ら考え、友と深め合い、豊かな基礎力を持つ子ども 2 根気：目標をもって、あきらめず最後までやりぬく子ども 3 和気：だれにも思いやりの気もちをもって接し、仲良く助け合う子ども 4 元気：心と体を鍛え、安全にきびきびと活動する子ども
学校経営方針	今年度の重点目標
1 子どもの命を守る学校づくり	(1) 子どもの命を守る教育活動の推進 ・・・「安全教育」の充実
2 伸びようとする力を伸ばしていく学校づくり	(2) その子のよさやもっている力を一層伸ばす学級・授業づくり ・・・「学力向上」と「授業改善」の推進
3 教職員一人一人が資質向上に努める学校づくり	(3) 生きる力を育み、子ども同士が支え、認め合う教育活動の実践 ・・・「自己肯定感」の育成
4 保護者、地域とともに歩む学校づくり	(4) 信州型コミュニティスクールの導入とキャリア教育・食育の推進 ・・・「学校ボランティア導入元年」の取り組み

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1) ・安全教育に関わる行事が確実に行われ、力をつけているが、日常廊下を走る子どもが多い。 ☆校長先生を先頭に、朝の交通安全指導や集団登下校の指導を実施している。 ☆集団登校の励行。☆命を守るための指導ができています。 ☆PTAの校外指導部が中心となって各地区における交通安全指導や集団登校指導が行われている。	A b	・廊下を走らないことについて、さらに学校全体で徹底していく。
(2) ・研究主任を中心に授業分析、通信の発行等充実した一年だった。 ・個に応じた指導を模索しているが、難しさのある子がいて対応しきれていない。 ・児童に対して個別に寄り添い、指導（声かけ）することで「算数っておもしろい」という声が聞かれた。 ☆先生方が良い学校づくりをされている。	B b	・美篤小としての授業スタイル（美篤小3観点に沿った授業）など、学校全体としてこのような授業をすすめていこうというものを全職員で確認し、実践していく。 ・行事を精選や内容の見直しをし、授業時間の確保に努める。
(3) ・授業での子どもの姿からも互いに大切にしよう姿がある。あいさつはもっとできるとよいと思う。 ・一人一公開を行うなど資質向上に大切にしていると思う。 ・支えあうという姿勢ができていくクラスがあり、そこから学び、さらにそれを広めていく方向でやっただけです。 ・学年共通のテーマで取り組んだことで、クラスの枠を超えて協力しあい、子どもたちの自信につながった。 ☆良く実践されている。	B b	・一人一公開や学習指導研究を継続し、本年度見直しをした美篤小3観点到に沿った授業実践を重ねていくとともに、ICT機器やグループ学習等を積極的に取り入れて、主体的・対話的な学びを意識して取り組んでいく。
(4) ・学校ボランティアの導入ができ、確かな一歩を歩めた。コミュニティスクールは一歩ずつ前進している。 ・放課後学習の取り組みで子どもが学ぶ機会が増え、意欲的になった。 ☆学校ボランティアが8人も応募、援護射撃は力になる。 ☆重点目標とは異なるが、保護者、地域とともに歩む学校づくりのひとつとして、美篤小の子供を守り育てる会の活動を通じ、地域全体を巻き込んだ諸施策が行われている。 ☆学校ボランティアの導入し活動を始めたことは大きな成果である。更なる内容の拡大を期待したい。	A a	・今年度の成果をもとに、無理のない程度に人数等広げていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育課程	教育課程	○ 学校教育目標の具現	○ 学校教育目標から「めざす子どもの姿」を具体的にイメージ・設定し、具現化することに努めたか
		○ 異年齢縦割り活動や桜並木活動・朝の時間の活動・食育等、本校としての特色ある教育活動の充実	○ 異年齢縦割り活動や桜並木活動・朝の時間の活動・食育等、本校としての特色ある教育活動は、子どもたちの生きる力を育むことにつながったか。
	学習指導	○ 学力の定着	○ P・C調査や全国学力学習状況調査・NRTテスト・CDTテスト等の標準化されたテスト結果の分析を基にした授業改善により、具体的な成果が上がったか。
生徒指導	○ アクティブラーニングや授業のユニバーサルデザイン化、ICT機器の活用等の視点を意識した授業改善	○ アクティブラーニングや授業のユニバーサルデザイン化、ICT機器の活用等の視点を意識した授業改善に積極的に取り組んだか。	
	○ 支援体制の充実	○ 支援を要する児童に対して、生徒指導主任、特別支援教育コーディネーターに情報が集まるような支援体制をとり、必要に応じて支援会議を開催し、連携して支援にあたったか	
安全	○ 迅速な相談・対応体制の構築	○ 学年会、職員会、学校運営委員会等で情報収集に努め、いじめ・不登校等生徒指導に関する問題の予防・早期解決にむけ迅速に対応した支援を行ったか	
	○ 安全教育の充実	○ 交通安全指導、登下校指導、避難訓練などを行い、子どもの安全意識を高める教育を行ったか	
学校運営	地域との連携	○ 安全点検や危機管理マニュアルの整備による児童の安全確保	○ 安全点検や危機管理対応マニュアルの見直しを定期的に行い、子どもの安全確保につとめたか
		○ 地域の教育力の活用	○ クラブ活動、総合的な学習の時間、食育、教科学習等で、地域の方を外部講師に依頼し、地域の教育力を活用した教育活動を行ったか
	○ PTA活動の充実	○ 育てよう「思いやりの心」広げよう「やさしい笑顔」家族学校 地域の和 をテーマに、積極的な活動、子どもを守る活動、親子の絆を深める活動を行ったか	
研修	○ 指導力向上をめざした授業研究	○ 「算数科」「音楽科」「特別支援教育」三つの柱に授業研究を推進するとともに一人一公開で授業を公開し、お互いの授業に学び合うことによって、日々の授業づくりを改善したか。	
	○ 職員研修の充実	○ 指導法研修（合唱、書道等）、人権教育研修（QU研修）機器理解研修、地域研修・特別支援教育研修などの研修を行い、指導支援・授業づくり、安全教育、生活指導に活かしたか	

成果と課題	評価	改善策・向上策
・教育目標から、普段の授業を具体的に考えてみるものがまだまだ足りない。 ・自分なりにイメージしてやっただけであるが、振り返ればもっとできたようにも思う。 ・総合学習で目標を明確に持ち、一年間やりぬきたいという気持ちで活動ができた。 ☆可能であれば、目標設定で定量的に提示できる項目は、評価シートで見直しについて検討をお願いしたい。	B b	グランドデザインの見直し、本校としての特色ある教育活動を位置づけ力を入れて取り組む。
・各学級の食育学習が充実していた。全校焼きいも大会は畑の広さも限られていて厳しい。 ・年間を通じて縦割り活動を行うことは、縦のつながりをつくり、関わり合いの中で上の学年から学べてよい。 ・子どもたちが主体的に活動できるよう職員一丸となって準備活動がされていたと思う。 ・代々引き継がれている桜並木活動の取り組みは素晴らしいが桜並木活動本来の意義が薄れかけているのではないか。 ☆縦割りグループで上級生が下級生の面倒を見て下級生も指示に従って桜並木の計測飯盒炊さんの役割を果たす姿は美篤小の伝統であり他に誇れることだ。 ☆H6年度から始まった桜並木の活動が地域の方も巻き込みながら継続されていることは素晴らしいことである。そして現在でも、児童会活動、総合的な学習の時間、全校縦割りグループ活動で「桜並木の施肥作業・整備」「桜並木の成長調査（縦割りグループ）」「三峰川河川敷と桜並木での全校飯盒炊爨」が実施されている。	A a	・桜並木を大切にしていこうという気持ちを育む取り組みを充実させる。 ・各学年の作物を給食に提供するなどして、全校がかかわっていく方向でよいのではないか。 ・来年度食育の発表に向けて、各学年の取り組みや子どもの学びを記録していく。
・テスト結果の分析から子どもたちの課題が明らかになってきた。 ・テストが多いと思われる。 ・国語力が弱い。特に文章の読み取り。 ・行事に追われ「つける力」を考えると力がない感じがする。 ・担任と少人数担当で指導方法や個別支援のあり方を情報交換し、特に理解に時間がかかる子どもへの指導で成果が上がった。 ・学力テストの分析から、過去に遡って復習プリントに取り組んだり、漢字学習の方法を工夫したりした結果力がついてきた。	B b	・PC調査、NRTなど、県と市の調査を一本にして子どもが学習に取り組む時間を確保したい。 ・読書の時間+ひとこと感想など+5W1Hまとめ。 ・自己研修の必要性。 ・テスト、検査結果の分析を丁寧に行い、分析結果に基づいて具体的な指導方針について考え、実践していくことを大切にしたい。
・書画カメラやipadを有効活用し、児童の意欲や集中力を高めることができた。 ・ICT機器の不備、ICT環境整備の遅れにより、アクティブラーニングを意識した授業が十分にできない。 ・配慮を必要とする児童だけでなく、クラス全体の支援につながる授業のユニバーサルデザイン化を考えることができた。 ・ICT機器の活用がまだ十分ではない。機器の活用がしやすい程に充実していない。 ・アクティブラーニングという点から図書館の資料を活用した授業を行った。 ・視覚的に考えられるよう紙や具体物を使ったが、ICT機器はほとんど使わなかった。	B c	・WiFi環境を全教室で整えていただけると大変便利である。 ・ICT機器を増やし、使い方についてもっと研修し、実際に使えるようにしたい。 ・ICT機器についてはデジタル教科書や電子黒板などが日常的に使える環境になく、数も不足している。また、あっても活用できない機器もあるので、機器の整備、購入、両方検討していく。 ・タブレット、ICT機器が公平に使えるよう普段の保管場所考え、整備していく。
・支援体制や共通理解はできていても、実際のところ十分な支援ができず、担任任せになっているところが多い。 ・支援会議がともしてもっと機能して欲しいと思います。 ・気にかけてくださるが、支援体制をとったりするまでは難しかったと思います。 ・支援を要する児童が多い中、担任一人で抱えなくてはならないことも多かった。	B b	・臨機応変に個別対応できる支援員を増やせるとよい。 ・個に合った支援に向けて、具体的に何をすべきか明確にしていけるとよい。 ・支援を要する児童に対してどのように指導していったらいいのかが、定期的に校内で相談できる体制をつくる。（月毎に月1回程度の校内支援委員会を位置づける。）
・コーディネーターや学年主任、教頭に困り感を一緒に考えてもらい、担任が一人で抱え込まず対応できた。 ・登校を渋る子どももめことがあるとき相談に乗っていただき、保護者対応の支援をしていただき、ありがとうございました。 ・対応の難しい子どもへの対応について、担任とたびたび話し合いの時間をもち、本人とも話して支援の方向を探ってきた。	B a	・不登校傾向の児童も何とか笑顔で登校できる姿が見られる。Drにつなぐなど、外部にも共通理解できる機関が増えたことが良かったので、今後も三者（コーディネーター、担任、保護者）で支援会議を行っていくようにしたい。 ・心を寄せる児童には、担任とのより密接な連絡が必要だと思う。
・登下校時の様子はもう少し改善したいが、全体としては安全への意識が高く、事故や怪我がなく過ごせている。 ・年数回の避難訓練や長期休み明けの先生方による登校指導等安全への意識を高める指導を行うことができた。 ・1年生は下校時に、安全に落ち着いて下校できるよう毎日学年でまとまって話してから送り出すようにしてきた。 ・下校時に下校指導の中で安全指導を取り入れてきた。大きな事故もなく下校できている。 ☆PTAの校外指導部が中心となって各地区における交通安全指導や集団登校指導が行われている。 ☆伊那警察署や美篤交通安全協会の協力のもと、交通安全教室を開催している。	A a	・毎日登校に付き添う支部長がいる中で私たちの登校指導のあり方を見直したい。 ・長期休み明けだけでなく、何回か定期的に朝の登校指導を行う。
・安全点検に心がけ、異常があった場合はすぐに校務技師を中心に対応できた。 ☆PTA校外指導部等の安全点検や美篤小の子供を守り育てる会などを活動を通じ、不安全箇所の共有化を図ると共に、関係部門と連携し改善を図っている。	B b	・通学路の危険箇所については区長会など地域へも働きかけを行い、改善を促す。 ・校内の安全確保については引き続き安全点検日々の巡視を継続して早期発見早期対応をしていく。
・多くのクラブ外部講師の先生に恵まれ、活動の幅が広がった。 ・苗の提供や読み聞かせ等コミュニティ・スクール（みすずっ子応援団）の皆さんのご協力があった。 ・各学年で地域の教育力を活用してきてよい。講師としてだけでなく、畑のアドバイスでも助かった。 ・地域探検クラブでは、地域のことを知り尽くしている講師に資料づくりから活動計画までやっていただき、子ども達に深く印象つくような内容の濃い活動を行うことができた。 ☆美篤小学校に対する美篤区民の方の理解もあり、多くの方が様々な分野で支援（協力）している。 ☆美篤地区は伝統的に地域全体が学校中心にまとまっている。開校記念日や資料館委員に昔の道具の活用、通常の読み聞かせ、探検クラブ、親子青空教室など地区のボランティアが活躍している。	A b	・来年度も地域の方の力を借りてクラブを開設していく方向で考えたい。 ・活動の様子を地域へも知らせ、さらなるボランティア発掘や新たな活動へ幅を広げることへつなげていく。
・たくさんの方の協力をもらい活動が充実していた。ただ、もう少し縮小して行った方がいいのではないかと。 ・親子レクで絆、和を深められた。☆親子レクは絆を深めるのに良い。 ☆PTAの役員になり手がなく大変と聞くが、美篤小PTAは活発で何よりだ。 ☆他地区では父親のPTAへの参加が求められるなかで、美篤小学校PTAにおいては、父親の参加も多数見受けられ、積極的に活動に参加している。また、PTAの各支部においても工夫を凝らした事業を展開している。	A b	・今年度の反省に基づいて縮小できるものがあれば具体的に縮小していく。
・一人一公開をさせてもらうことで、授業づくりの意識が高まり、日々の授業づくりの改善に役立った。 ・算数の教科制を活かす授業づくりを学べた。 ・一人一公開はそれぞれ忙しく、参観のために自習させるのも大変なので、今の形で公開しても学び合いになるか分からない。 ・教師主導の授業傾向だったが、子どもたちの感想や思いを取り入れ、課題設定など音楽活動の授業を通して学び合えた。 ・授業のユニバーサルデザイン化など、全体で学びあう機会となり、意識も高まった。	B b	・公開のポイントを決め、短時間だけ同じ部会のメンバーが参観するなど負担をなくし、視点もはっきりさせていくのがよいのでは。
・研修が多い。それが原因で授業が短くなっていることは気になる。 ・多くの研修の場が与えられ、いろいろ知る機会もできた。他の研修も入れていって少し変えていったらどうだろうか。 ・変化していく社会に合った研修、古くからの大事にしたい研修が行えたいと思う。 ☆職員研修の講師として、教育界に無関係の方（例：産業界等）をお願いすることを今後の課題として検討願いたい。	B a	・地域研修は現場に行ってみるのもよい。 ・恒例となっている研修と職員のニーズや課題に応じた研修を組み合わせで行っていく。